



226号 発行所/ 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者/ 病院長 林 弘人 印刷/(株)アートネクスト

4月1日付で病理診断科医長に赴任しました。2001年4月から2004年1月まで、旧国立下関病院に病理医として在籍しており、久しぶりの復職になります。私は、1986年3月に長崎大学医学部を卒業し、今年で卒後35年です。最初の10年間は、主に免疫の研究に従事し、その内、4年半は、トロントマウントシナイ病院研究所とニューヨーク大学医学部に留学しました。1996年3月に帰国して以来、杏林大学医学部、NTT東日本関東病院、旧国立下関病院、NTT東日本関東病院および小倉記念病院にて、病理診断に携わっています。



病理診断科医長 村田 健一郎

# 病理医の役割 ～温故知新～



顕微鏡を見ながら悩む仕事です

学問としての、「病理学」の本分は、あらゆる手段を用いて、病気の原因を突き止めることです。しかし、「病理診断」は、手術で摘出された臓器や生検組織から作製した標本を、光学顕微鏡で眺めて、各疾患に分類する、100年以上も前に確立された技術に依存しています。長年に渡る、先達による膨大な知識の蓄積を、一病理医が網羅することは不可能です。各標本が、特定の疾患に必要に応じて民間検査機関に委嘱しています。

特徴的とされる組織像を示すとは限らないので、「顕微鏡を見ながら悩むこと」も仕事になります。また、通常作製している標本に加えて、疾患に陥った細胞に発現する蛋白等を認識する特異抗体を用いた「免疫組織化学」や、腫瘍に関連した染色体異常や遺伝子変異を検出する技術を併用することが、病理診断や治療法の選択の判断に必要な場合もあります。当センターでは、必要に応じて民間検査機関に委嘱しています。



病理診断科および病理検査室スタッフ

山口県内の病院には病理医が充足しているとは言えず、その上、常勤病理医の多くは還暦を越えており、後進の獲得、育成が急務です。「画像情報の類型化」による分類は、AIの得意分野ですから、いずれ病理診断に関わる業務の多くが、AIに置き換わると考えられます。しかし、顕微鏡で観察する

標本画像は2次元であって、実際に病気に侵された臓器は、時間経過による病態の変化も併せると、4次元の世界ですから、患者さんの症状や臨床経過、検体検査や画像検査の結果など、臨床情報を考慮した、人の目による診断の重要性は変わらなると考えています。

## 外来診療担当医一覧表

2021年10月1日

グループ名	診療科名	月	火	水	木	金	特殊外来 ※要予約	
総合診療【G2】	総合診療	午前	佐藤 穂	田崎 彩子	佐藤 穂	佐藤 穂	田崎 彩子	人工ペースメーカー外来 リウマチ外来 不妊症外来 難聴・補聴器外来 ペインクリニック
	精神科(予約制)【G5】	午前	若林 祐介	若林 祐介	若林 祐介	若林 祐介	若林 祐介	
	糖尿病・血液内科	午前	鶴 政俊	鶴政俊(再診のみ) 徳永 舞子	松井久未子	鶴 政俊	松井久未子(再診のみ)	
	歯科口腔外科(予約制)	午前	板敷 康隆	板敷 康隆	板敷 康隆	板敷 康隆	板敷 康隆	
女性総合診療【H2】	心理カウンセリング(予約制)		白井 麻子 黒木 浩子	白井 麻子 黒木 浩子	白井 麻子 黒木 浩子	白井 麻子 黒木 浩子	白井 麻子 黒木 浩子	禁煙外来 頭痛外来 スポーツ外来 膝関節外来 健康診断 機能的脳神経外科 手の外科 足の疾患センター 骨軟部腫瘍 パーキンソン病 セカンドオピニオン外来
	女性総合診療(予約制)	午後	早野 智子	古谷 雄司	早野 智子	大谷 望	大谷 望	
循環器病総合診療【G2】	循環器内科	午前(新来) 午後(再来)	古谷 雄司 早野 智子	古谷 雄司 大谷 望	早野 智子 大谷 望	大谷 望 古谷 雄司	早野 智子	禁煙外来 頭痛外来 スポーツ外来 膝関節外来 健康診断 機能的脳神経外科 手の外科 足の疾患センター 骨軟部腫瘍 パーキンソン病 セカンドオピニオン外来
	呼吸器内科	午前 午後		加藤香織(非)	田中 信一郎	生嶋 一成(非)	花香 哲也(非)	
	脳神経内科(午後外来は予約制)	午前(新来) 午後(再来)	尾本 雅俊 田中 信一郎	尾本 雅俊	田中 信一郎		尾本 雅俊	
	脳神経外科	午前	副島 慶輝	山下 勝弘	尾本 雅俊	山下 勝弘	副島 慶輝	
がん 消化器・肝臓病 総合診療【G5】	機能的脳神経外科(毎月最終水曜日(予約制))	午前			藤岡 裕士(非)			禁煙外来 頭痛外来 スポーツ外来 膝関節外来 健康診断 機能的脳神経外科 手の外科 足の疾患センター 骨軟部腫瘍 パーキンソン病 セカンドオピニオン外来
	消化器内科	午前	原野 恵 千原 大典	坂口 栄樹 西山 夏子	柳 井秀雄 戒能 聖治	坂口 栄樹 千原 大典	原野 恵 西山 夏子	
	乳腺外科	午前	長島 由紀子	長島 由紀子	長島 由紀子	長島 由紀子	長島 由紀子	
	呼吸器外科	午前	吉野 茂文	矢原 昇	坂本 和彦	吉野 茂文	近藤 潤也	
	外科	(新来)	吉野 茂文	矢原 昇	坂本 和彦	吉野 茂文	近藤 潤也	
	消化器外科	午前(新来)	坂本 和彦 濱崎 太郎	林 弘人 北原 正博	近藤 潤也	北原 正博 堤 甲輔	矢原 昇	
	内視鏡外科	午前			村上 雅憲		村上 雅憲	
	心臓血管外科	午前			村上 雅憲		村上 雅憲	
	足の疾患センター(予約制)	午後		坂口 栄樹		坂口 栄樹		
	肝臓内科	午前						
腫瘍内科【Q2】	午前							
放射線治療科【H2】	放射線治療科	午前	河村 光俊 佃 利信	河村 光俊 佃 利信(再診のみ)	河村 光俊 佃 利信	河村 光俊 佃 利信	河村 光俊 佃 利信	禁煙外来 頭痛外来 スポーツ外来 膝関節外来 健康診断 機能的脳神経外科 手の外科 足の疾患センター 骨軟部腫瘍 パーキンソン病 セカンドオピニオン外来
	放射線治療科	午後	河村 光俊 佃 利信	河村 光俊 佃 利信(再診のみ)	河村 光俊 佃 利信	河村 光俊 佃 利信	河村 光俊 佃 利信	
麻酔科・ペインクリニック	麻酔科・ペインクリニック	午前	内本 亮吾 田和 聖子	内本 亮吾 藤田 文彦	田和 聖子 藤田 文彦	内本 亮吾 藤田 文彦	内本 亮吾 藤田 文彦	禁煙外来 頭痛外来 スポーツ外来 膝関節外来 健康診断 機能的脳神経外科 手の外科 足の疾患センター 骨軟部腫瘍 パーキンソン病 セカンドオピニオン外来
	麻酔科・ペインクリニック	午後						
長寿医療 総合診療【G1】	整形外科	午前	伊原 公一郎 河村 洋行 篠原 道雄	峯 孝友 富 永康弘	河村 洋行 栗山 龍太郎	伊原 公一郎 富 永康弘	峯 孝友 篠原 道雄	禁煙外来 頭痛外来 スポーツ外来 膝関節外来 健康診断 機能的脳神経外科 手の外科 足の疾患センター 骨軟部腫瘍 パーキンソン病 セカンドオピニオン外来
	リウマチ科	午前		峯 孝友		峯 孝友		
	泌尿器科	午前(新来) 午後(再来)	鄭 泰秀 徳永 貴範(10時から)	徳永 貴範 鄭 泰秀(10時から)	鄭 泰秀 徳永 貴範(10時から)	鄭 泰秀 徳永 貴範(10時から)	徳永 貴範 鄭 泰秀(10時から)	
	眼科	午前	小林 博 小林 かわり 村上 直子	小林 博(予約のみ) 小林 かわり(予約のみ)	小林 博 村上 直子	小林 博(予約のみ) 小林 かわり(予約のみ)	小林 博 村上 直子	
	耳鼻いんこう科	午前		田原 晋作 (10時以降予約のみ)	村上 直子	田原 晋作 (10時以降予約のみ)	村上 直子 田原 晋作 (10時以降予約のみ)	
	リハビリテーション科	午後 午前			学童 外来			
透析センター【G8】	透析センター	午前	鄭 泰秀 牧 隆司	鄭 泰秀 牧 隆司	鄭 泰秀 牧 隆司	鄭 泰秀 牧 隆司	鄭 泰秀 牧 隆司	
成育医療 総合診療【G3】	小児科	午前 午後	牧 隆司	牧 隆司	牧 隆司	牧 隆司	牧 隆司	禁煙外来 頭痛外来 スポーツ外来 膝関節外来 健康診断 機能的脳神経外科 手の外科 足の疾患センター 骨軟部腫瘍 パーキンソン病 セカンドオピニオン外来
	皮膚科(予約制)	午前	橋本 紗和子(非)				白水 舞(非)	
	形成外科	午後(入局) 午前		高須 啓之(非)				
	産婦人科	午前	林 公一 (新患受付)	林 公一 (再診)	齊藤 剛(非) (林 公一)	林 公一 (再診)	林 公一 (再診)	
放射線診断科(紹介予約のみ)	午前		岡田 宗正					
救命救急センター【ER】	救命救急センター-ER24	24時間	松本 泰幸 担当 医	松本 泰幸 担当 医	松本 泰幸 担当 医	松本 泰幸 担当 医	松本 泰幸 担当 医	
生活習慣病センター【H3】	生活習慣病センター	午前	松本 裕美	平岡 興三	松本 裕美	松本 裕美	平岡 興三	

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号  
 国立病院機構 関門医療センター  
 診療受付時間：午前8:30～11:30  
 午後(各診療科外来にお問い合わせください)  
 ※休診日：土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)

★代表 TEL(083)241-1199  
 FAX(083)241-1301  
 ★地域医療連携室 (紹介患者者専用ダイヤル：紹介状をお持ちの方)  
 TEL(083)241-1191(2561-2377)  
 FAX(083)241-1302  
 (★透析センター FAX(083)241-1308)  
<https://kanmon.hosp.go.jp/>

# 脳ドックの認知機能検査について



生活習慣病センター長  
脳神経外科医長  
かつひろ  
やました 勝弘

## 2021年10月より脳ドックの検査に認知症検査を加える計画になりました

これまでの脳ドック検査で伴って増え続ける認知症を、MRIや頸動脈エコー検査早期発見したいとの要望が多くなり、認知機能検査を追加するにいたしました。

認知機能検査では、心理療法士が長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)とmini-mental state examination(MMSE)の2種類の検査を行います。認知機能を点数で評価し、検査に要する時間は約15分で簡単な検査であるため、受検者の負担は少ないと思います。認知機能検査で異常が見られた場合は、その原因がアルツハイマー型認知症なのか、脳梗塞なのか、あるいは水頭症や慢性硬膜下血腫など



心理療法士による認知症検査

の病変かを健診時に行うMRI検査で判定することもできます。さらに詳しい検査が必要な場合は、脳神経内科や脳神経外科で2次健診を行います。認知症の早期発見に是非ともご利用ください。

連絡先：  
生活習慣病センター  
(内線2363)

山下 勝弘(脳神経外科)  
白井 麻子(心理療法士)  
原田 聖三(認知症看護認定看護師)

# 脳ドックによる認知症の早期発見



認知症看護認定看護師  
はらだ せいぞう  
原田 聖三

脳ドックは脳卒中や脳萎縮といった脳疾患リスクの早期発見に貢献してきましたが、現在は認知症の早期発見にも期待されています。近年、脳ドック実施施設においてはMRI検査以外に認知機能検査も実施されている施設が増加しています。脳ドック実施施設における役割は、早期の認知症あるいは軽度認知症疑いを的確に拾い上げること、認知症発症のリスク因子を持つ方への生活習慣の改善を促し、行動変容に繋げることです。

認知症は、慢性あるいは進行性の脳疾患によつて生じ、記憶・理解などの認知機能が障害される症候群です。そのため、認知症高齢者は今までは生活の中で出来ていた趣味活動や料理などが、今では生活に支障をきたすことが多くあります。軽度の認知症が脳ドックで早期発見できれば、食生活を早期に見直し、運動を習慣化する、今後はコロナ禍で難しいですが、外出機会を増やし他者と交流するなどの生活に変えていくことができるようになります。



MRI検査

近年、CT画像は立体的に体内を評価でき、レントゲンよりも圧倒的に多くの情報を得られることから、画像検査の主体はレントゲン検査からCT検査に変わってきています。そのためレントゲンをとる機会が減り、レントゲン検査の機会が多くなっています。経験できたのは小児の症例が多く集まるこの病院ならではの機会だと思えました。最後に自分を指導してくださったこともとおとなの医療センター小児科の先生方、研修をサポートしてくださった病院スタッフの方々に感謝を申し上げます。今回の研修が今後の医師としての成長に役立てたいと思います。

# はじめまして 新任医師ご紹介



消化器内科医師  
ひろた たくみ  
吉田 拓

10月から消化器内科で勤務となります。当センターで初期臨床研修を修了しており、医師人生のスタートとなった病院で勤務できることを嬉しく思います。まだまだできることは少ないですが、精一杯がんばりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

# パルスオキシメーターって…なに？

新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、重症度の目安となる動脈血中の酸素飽和度を測定できるパルスオキシメーターという医療器械のことを耳にする機会が増えてきました。そこでパルスオキシメーターと呼吸不全について簡単な説明をさせていただきます。



臨床工学技士長  
みしろ 代 英 紀

「93%超〜96%未満」は中等症Ⅰ(呼吸不全なし)  
「93%以下」は中等症Ⅱ(呼吸不全あり)

パルスオキシメーターとは、皮膚を通して動脈血中の酸素飽和度と脈拍数を測定することができる装置です。赤い光の出る装置(プローブ)を指にはさむだけで測定ができ、使い方がとても簡単です。値はパーセント(%)で表され、一般的に96〜99%が標準値とされ、90%以下の場合には十分な酸素を全身の臓器に送れなくなつた状態(呼吸不全)になっている可能性があります。適切な対応が必要とされています。

新型コロナウイルス感染症は、軽症と評価しています。患者のICUへの入室や人工呼吸器が必要であれば、重症と判断しています。新型コロナウイルス感染症は、軽症であつても、顕著な自覚症状もないまま突然、急速に肺炎が進行し重症化する傾向がありますが、パルスオキシメーターで連続的な測定をすることで、悪化時にいち早く処置につなげることが可能です。既に、ホテル療養のコロナウイルス感染症患者にはパルスオキシメーターが貸し出され、一部の自治体では、自宅療養者にも貸与されているようです。

新型コロナウイルスの感染では、肺炎になり肺がダメージを受けると、肺から血液中に酸素が十分にいき渡らず、動脈血中の酸素飽和度が低下します。動脈血中酸素飽和度は、新型コロナウイルス患者の病状の判断目安として用いられています。厚生省の「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き」によると、動脈血中酸素飽和度が「96%以上」は軽症



パルスオキシメーター

【参照】  
一般社団法人日本呼吸器学会  
厚生労働省「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き 第5.2版」

# 「地域医療研修を終えて」



研修医  
さの あつし  
佐野 淳樹

このたび香川県普通寺市にある四国こどもとおとなの医療センターにある四国こどもとおとなの医療センターに外病院研修へ行かせていただきました。病院名にもあるように小児科領域に力を入れている病院で、普通寺市だけでなく香川県や四国全域から小児患者が集まります。一般的な風邪症候群のような軽症の疾患から、手術が必要になるような先天性心疾患、発育発達異常のような神経疾患など複数の領域にわたる患者が治療を受けており、この小児科で1か月勉強させていただく機会をいただきました。

私は来年から放射線科を専攻していく予定であり、CTの解剖構造の見え方が大きく変わってくるため、年齢ごとのレントゲンを多く読む機会を与えていただきました。特に小児は体の成長に応じてレントゲンで検査の画像に読影を付けるための勉強をしてきました。

近年、脳ドック実施施設においてはMRI検査以外に認知機能検査も実施されている施設が増加しています。脳ドック実施施設における役割は、早期の認知症あるいは軽度認知症疑いを的確に拾い上げること、認知症発症のリスク因子を持つ方への生活習慣の改善を促し、行動変容に繋げることです。

認知症は、慢性あるいは進行性の脳疾患によつて生じ、記憶・理解などの認知機能が障害される症候群です。そのため、認知症高齢者は今までは生活の中で出来ていた趣味活動や料理などが、今では生活に支障をきたすことが多くあります。軽度の認知症が脳ドックで早期発見できれば、食生活を早期に見直し、運動を習慣化する、今後はコロナ禍で難しいですが、外出機会を増やし他者と交流するなどの生活に変えていくことができるようになります。

# ポランテア 消毒ボトルのカバー

この度、ポランテアさんが院内の消毒ボトルにカバーを作ってくださいました。色とりどりの毛糸でサイズぴったりの可愛いらしいカバーが、院内のあちらこちらにお目見えしています。無機質な消毒ボトルにも温かさが感じられる出来事でした。

